

日本歯科医学会会長選挙報告

崩壊寸前の歯科界の惨状を目の当たりにし、慄然たる思いで出馬を決意し、我が人生の最終場面を賭した次第です。

文字通り東奔西走しわが歳を忘れて精力的に自らの見解を説明し、多くの第一線教育、研究者から貴重なご意見を拝聴して参りました。大多数の先生方から熱い共感を頂戴し、支持を確約してくれました。しかし、実際の票には遠く結びつきませんでした。

結果はどうあれ私の歯科界に対する現状認識、ならびにその具体的な再生対応について、間違えているとは思っておりません。今後も医学医療との整合、歯保連構想を実現するために最大限の努力をし、次世代の志高い歯科医師に伝えたいと考えております。

マニフェストは下記の通りです。

立候補趣意

瀬戸 暁一

わが国の歯科医学、歯科医療の危機的状況が増幅されているなかで、焦眉の急を感じつつ、日本歯科医学会会長選挙に再び立候補する決意をいたしました。立候補にあたり私の信条を述べさせていただきます。

- 日本歯科医師会、日本歯科医学会、全国国公立歯育機関が中核となって歯科医師需給問題、歯科医学教育に関わる諸問題、歯科医療の危機に対して一丸となって精力的に対応する必要があります。また日本歯科医学会は日本学士院、日本学術会議と連携して歯科医学が自然科学の一分野としてグローバルスタンダードを牽引する役割を果たすことが求められています。
- 現状を打開するには、歯科医学、歯科医療の質的向上が鍵となります。これが医療、教育、需給問題の解決につながります。歯科医学、歯科医療の

質の向上こそ日本歯科医学会が取り組まなければならない喫緊の課題です。

- 歯科医師需給に関しては、根拠に基づいたシミュレーションを緻密に行わなければなりません。また歯科医療における access、quality、cost のアンバランスの解消が先決で、質的向上とこれに相応した診療評価体系の改善に向けてまず力を注ぐべきです。日本歯科医学会は全ての問題が需給問題に連なっていることを認識し、深い関心を持つべきです。
- 日本の若者は歯科医学に魅力を感じなくなっています。外部環境の変化によるとばかり云っておれません。歯科医学研究の社会への発信が乏しく、歯科医療に必ずしも十分に反映されていない事に責任を感じます。大学ではサイエンスとスキルの調和がとれた教育体系へ、know how 教育から know why 教育に転換し、感動にみちた真理探究を学生と共に進めたいものです。
- 医科における外保連、内保連は40年の歴史をもってEBMを探求し、医科の医療技術評価体制に多大な影響を与えてきました。現在は看保連も加わり、三保連として国民医療のあるべき姿を提言しています。現在歯科診療報酬が医科に比べて大きく乖離していることに鑑み、歯科系学会社会保険委員会連合（歯保連）を設立することが急務と認識されます。外保連すなわち外科系学会社会保険委員会連合が、業の団体とみなされる医師会、医学会から一線を画しているように、歯科における歯保連も歯科医学会から一歩離れた存在として、歯科における新しい医療技術評価提案書を作成します。2年に一度この提案書を作成するのは従来から学術団体即ち学会の役割分担であり、これを各学会のより緊密な連携によってEBDに基づく提案書を作成し、歯科診療評価の向上を目指すものです。この連合体は歯科医師会、歯科医学会とは緊密に連携しつつ役割を果たすことが前提であることは言うまでもありません。
- 本年専門医認定に関する第三者機関となることを目指して（社）日本専門医制評価・認定機構が医師を対象として発足しましたが、歯科医師の専門性資格に関してはこの機構に参画するか、あるいはこれと整合しつつ歯科独自に同様の機構を立ち上げることを早急に検討することが必要と思われます。
- 日本歯科医師会と日本歯科医学会は一体であり、常に有機的なつながりの上で成り立っていると信じています。歯科医師会活動を学術方面から支援

する責務を全うするためには、より緊密な協力関係を構築する必要があります。その一方で学会のスリム化と日本歯科医師会準会員登録を具体的に推進する時がきています。